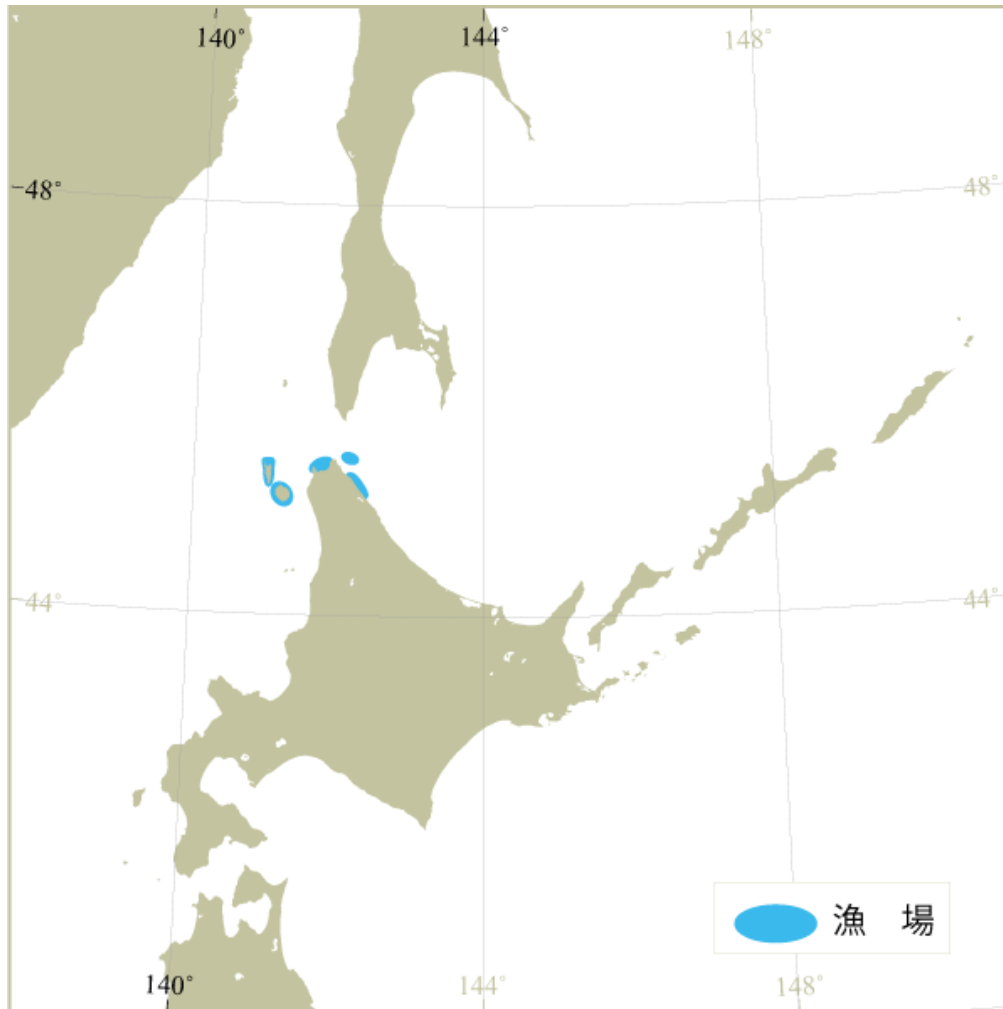




イカナゴ類 宗谷海峡 令和4年度資源評価結果

生物学的特性

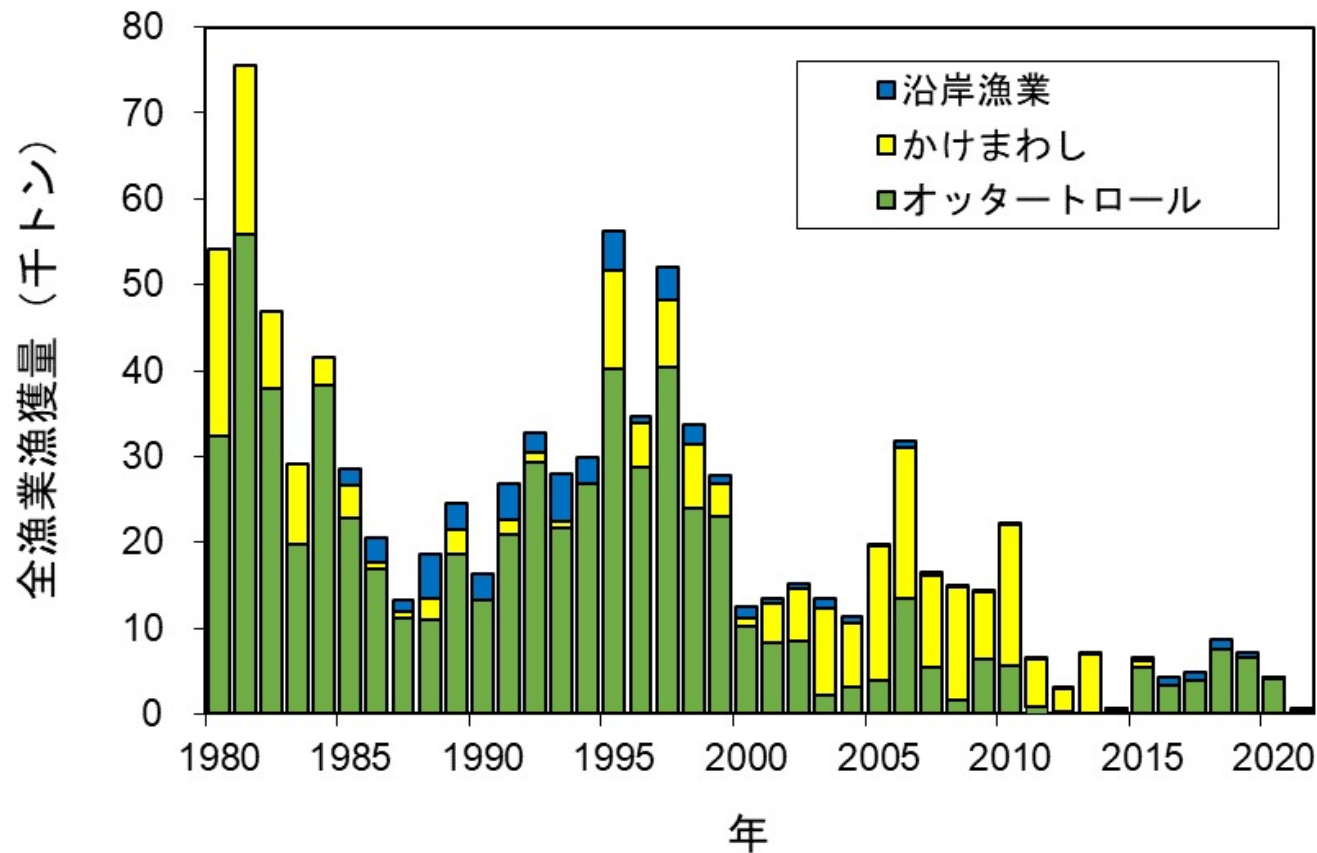


生物学的特性

- 寿命：7歳以上
- 成熟開始年齢：2～3歳
- 産卵期・産卵場：イカナゴは3～5月、稚内、枝幸、利尻島・礼文島周辺沿岸、キタイカナゴは11～12月、サハリン周辺沿岸、オオイカナゴは不明
- 食性：未成魚はカイアシ類などの浮遊性甲殻類、珪藻類、成魚はカイアシ類、端脚類、オキアミ類、十脚類、ヤムシ類、魚類
- 捕食者：魚類、トド

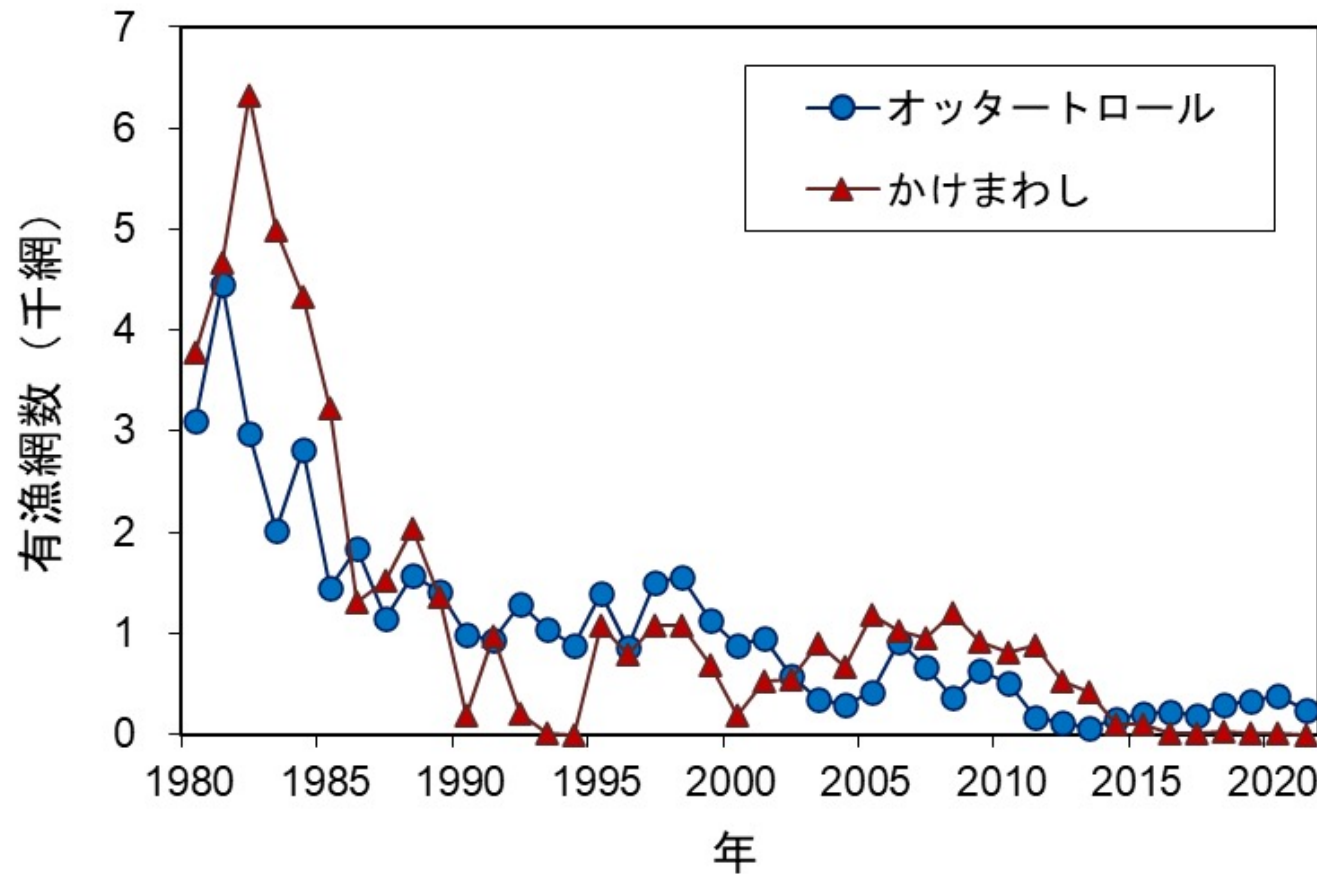
- 日本水域の漁場は、沖合底びき網漁業（沖底）漁期中における宗谷海峡周辺の分布域の南限

漁獲の動向①



- 主漁法は沖底（かけまわし、オッタートロール）
- 漁獲量（全漁業種合計）は、2014年には443トンに減少したが、その後増加した後、2021年は426トン
- このうち、沖底の漁獲量は、2021年は387トン

漁獲の動向②



- 沖底の漁獲努力量（有漁網数）は、1980年代以降減少傾向
- 2021年の努力量：オッタートロール238網、かけまわし0網

※有漁網数：イカナゴ類の漁獲があった操業の曳網回数

資源評価の流れ

漁獲成績報告書・
漁獲量、努力量



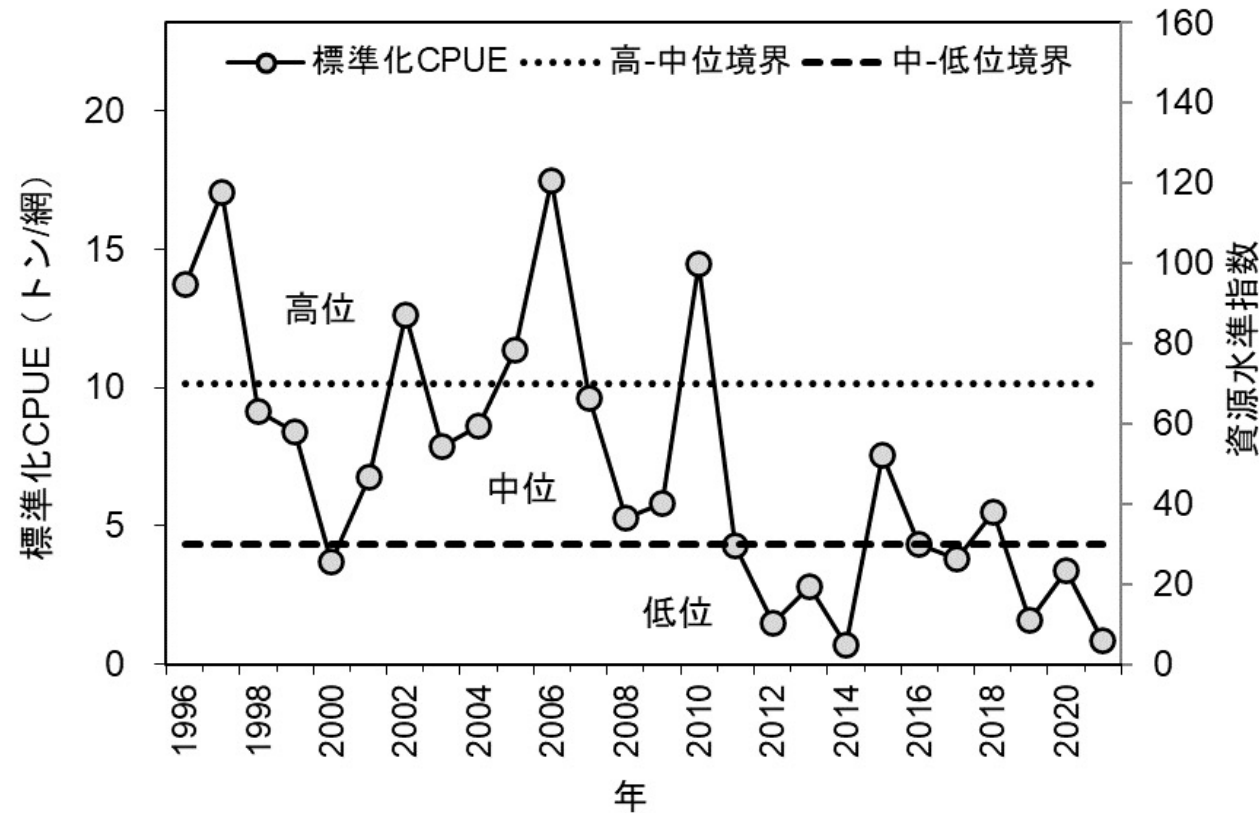
2021年までの資源量指標値・
標準化 CPUE



資源水準・動向判断

※標準化CPUE：1網あたり漁獲量を単位努力量あたり漁獲量（CPUE）とし、漁法等を説明変数とする一般化線形混合モデルにより標準化したもの

資源の動向



※水準区分 低位／中位：水準指数 30 中位／高位：水準指数 70
(1996～2021年の標準化CPUEの平均値を50とし、各年の相対値を資源水準指数とした)

- 沖底の標準化CPUEの推移から資源水準と動向を判断
- 資源水準：2021年の資源水準指数は6であり「低位」
- 資源動向：直近5年間（2017～2021年）の標準化CPUEの推移から「減少」

資源評価のまとめ

- イカナゴ類宗谷海峡の資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 沖底の標準化CPUE に基づいて資源状態を判断
- 資源状態が良くなっているとは判断できないため、引き続き今後の加入状況に注視しつつ、これまでの資源回復計画での取り組み（操業期間の短縮、休漁日の設定）を継続する必要がある